



佐伯の産業に親しんで

キウイの木に支柱を添える作業手順を確認する中学生ら＝佐伯市堅田



【佐伯】佐伯市は本年度、市内の小中学生を対象にした「ふるさと産業教育」に取り組んでいる。企業見学と職場体験が柱で、従来の雇用促進の観点から、より教育的色合いの濃い施策に衣替えした。職場体験の第1弾として6月29、30の両日、佐伯南中の2年生85人がグループに分かれて市内19の事業所を訪れた。

小田開発工業（市内海崎）は男子4人を受け入れた。初日はアグリ（農業）部門がキウイを栽培する市内堅田の農場で誘引作業をうにした。

体験した。高さ2メートルほどに育ったキウイの木に支柱を添えたり、ひもを張ったりして、つるが上に伸びるようにした。

小中学生対象、市の施策スタート

企業見学と職場体験 柱に

永田瑠音さんは「食べ物関係に興味があり、この会社を選んだ。田植えをしたことはあるが、外で作業する大変さを改めて感じた」と話した。

お菓子のうめだ（市内鶴望）では女子2人が製造補助に携わり、生地の仕込みや包装を手伝った。長田芽依さんは「職人さんたちの手際の良さに驚い



洋菓子容器に詰める中学生＝佐伯市鶴望

た」、保田桃希さんは「いろいろな工程を経て商品ができることを知った」と話した。

これまでも職場体験を数多く受け入れてきた梅田一弘社長（66）は「佐伯の良さを感じて、一人でも多くの子どもたちが地元に残ってほしい」と願った。

事業は観光まちづくり佐伯が実務を担い、市内の小4～中3（約2800人）を対象に企業見学を実施。中学生は職場体験もする。

（三浦誠二）



〔問①〕記事の内容を読み、以下の（ ）に当てはまる言葉や数字を書き入れてください。

- 1) 佐伯市は本年度から、市内の小中学生を対象にした「（ ふるさと産業教育 ）」に取り組んでいる。
- 2) この施策は、（ 企業見学 ）と職場体験が柱となっている。
- 3) 6月29日と30日の職場体験の第1弾では、佐伯南中学校2年生（ 85 ）人がグループに分かれて佐伯市内の事業所（ 19 ）箇所を訪れた。

〔問②〕キウイ栽培で中学生が体験した作業とその作業の目的の記事から読み取って書いてください。

高さ2メートルほどに育ったキウイの木に支柱を添えたり、ひもを引っ張ったりする誘引作業に取り組んだ。
それによって、つるが上に伸びるようにするため。

〔問③〕あなたが地域の企業やお店などで職場体験をしたら、どのような仕事に挑戦してみたいですか。また、その仕事の「どんな工夫や苦労」を実際に見て、学んでみたいかを書いてください。

私は地元のスーパーマーケットで職場体験をしてみたいです。普段何気なく買い物に行っていますが、たくさんのお客さんが来ても困らないように、商品の並べ方や賞味期限の管理にどのような工夫があるのかを知りたいです。また、笑顔で接客を続けるための苦労や心がけていることを店員さんから直接学び、将来の自分の生活や仕事選びに活かしたいです。